

住宅用太陽光パネル拡販

カナメ 屋根一体型の営業強化

屋根工事を手がけるカナメ(宇都宮市)は一般住宅向けに太陽光発電パネルと一体型の屋根を拡販する。工務店や設計事務所にダイレクトメール(DM)の送付を始めたほか、関西への営業も強化する。住宅の駆け込み需要と再生可能エネルギーの買い取り制度で、一般住宅でも太陽光発電の

関心が高まっていることから、需要を取り込む。同社は工場のパネル取り付け金具の開発など、太陽光発電事業では産業向けを重視してきた。消費税増税を控えた住宅の需要増を受けて、太陽光パネルと一体となった一般住宅向け屋根材「カナメソーラールーフ」の営業を強化する。

工務店などを対象にパネルの性能を解説したDMの送付を始めた。関東を中心に約2000通を月1回送る。カタログも増刷するなど販促費を昨年比で約5割増やす。10月には住宅メーカーなどが集まる関西のイベントに初めて出展する。「カナメソーラールーフ」の2013年12月期

の売上高目標は15億円。当初の10億円から今月上旬修正した。同社は「ニーズは産業用から家庭用にシフトしている」と話している。